

香椎下原校区自治協議会

長谷ダム水がめまつり

「命の水」～水の尊さ・ありがたさ・大切さ～

「水がめまつり」は、平成7年10月に、山の「命の水」に感謝し、地域文化の向上と住民相互のふれあい交流を図ることを目的に「長谷ダム映画祭&水がめまつり」を実施し、1,000人余の区民が楽しんだことから始まります。翌平成8年に、後世への伝承のため、自治連合会を中心に組織強化を図り、東区地域づくり推進助成事業の一環として「長谷ダム水がめまつり」を実施しました。

まつりの内容は、①水感謝祈願(香椎宮・ダム)②水道局による展示会③イベント(仮設舞台での太鼓演奏、小学生による合唱と踊り、中学生・九産大生の楽器演奏など)④地域物産展(青空市)⑤うまかもん市(屋台)等です。来場者は年々増加しており、多い時には2,500～3,000人余の人達で賑わいます。

平成18年の自治協議会発足時には、「日常の活動を通じて、住みやすい安心な町・活力ある素晴らしい町」を目指すことを掲げ、自治協議会の中に「長谷ダム水がめまつり実行委員会」を設置しました。「水がめまつり」は、「水の尊さ・ありがたさ・大切さ」を改めて考える機会として、地域に根づいたものとなっています。今後とも、山の緑とダムの水資源を大切にすることを願いつつ、魅力あるまちづくりを推進していきたいと思っています。

今年(第17回)は、10月8日(土)11時開催予定(雨天時は10月9日(日)に順延)です。



毎年素敵な演奏 香椎第三中吹奏楽部



綾杉太鼓も勇壮に祭りを盛り上げます



ダムの恵みに感謝を込めて

長谷ダムは、昭和53・54年の渇水を機に、水不足を解消するため福岡市が東区の東部、三日月山のふもとに建設、平成5年1月に完成した福岡市では7番目の水がめとして供給をはじめた全国でも数少ない「揚水式ダム」です。

多々良川水系の長谷川に建設され、多々良川の水が豊富な時期に下流の取水場からポンプで水を汲み上げ、ダムに送っています。有効貯水容量485万立方メートル。集水面積1.8平方キロメートルで福岡ドームが約46個入る広さです。

水面に映る四季折々の山の色と、三日月湖にかかる赤い橋。その鮮やかなコントラストの美しさ。ダムの横には大きな芝生広場。居住区域の近くにあるダムというのも珍らしく、休日には家族連れで楽しむ姿があちらこちらに見られます。(福岡市ホームページより掲載)



長谷ダムの様子



夏祭りで、ふれあいの地域づくり

～ 今年も、乗馬体験！～

今年、創設百年を迎える住吉小学校で、7月24日、恒例の住吉校区夏祭りを開催しました。

かわいい小学生による「子どもみこし」や、元気なソーラン踊りで、祭りが始まりました。住吉小に隣接する、全国屈指の実力を誇る精華女子高等学校の吹奏楽部の演奏が、毎年、参加者を魅了し、マーチングは華麗に祭りを盛り上げてくれます。



一昨年はミニSL、昨年は熱気球、今年も宗像市にある乗馬クラブから5頭の馬達がやってきました。間近で見る馬の大きさにびっくりしながらも、親子で乗馬されるご家族も多く、乗馬体験は子ども達にも、大人にも大人気でした。

各種団体による夜店を楽しみながら、最後は、イエス・ノー・ゲームをみんなで行い、楽しい夏の1日を過ごしました。



少子化が進む今日、住吉校区では、小学校の運動会と校区の運動会を合同で開催するなど、子どもと地域がふれあう機会を大切にしています。

夏祭りをはじめ、校区で開催する様々な行事が、地域のふれあいや出会いの場となり、まちづくり・地域づくりのきっかけになればと、自治協議会一同、日々、頑張っています。

夏祭りをはじめ、校区で開催する様々な行事が、地域のふれあいや出会いの場となり、まちづくり・地域づくりのきっかけになればと、自治協議会一同、日々、頑張っています。



2校区「合同」で夏まつりを開催

平成26年4月に大名小学校、舞鶴小学校、箕子小学校及び舞鶴中学校が統合され、舞鶴小学校敷地に「舞鶴小中学校」が開校することになっています。このため、舞鶴小学校の子どもたちは、本年4月から大名小学校に仮移転した舞鶴小学校に通っています。これまで、大名校区、舞鶴校区は、それぞれの小学校のグラウンドで夏まつりを行ってききましたが、舞鶴小学校では、7月下旬から、校舎の解体工事が始まっており、グラウンドは使えません。地域の夏の一大行事をどうするか、2校区で話し合い、大名小学校のグラウンドを使用して「合同」で開催してみることにしました。夏祭りの開催にあたっては、校区ごとの実行委

員会、2校区合同の実行委員会を開催しました。これまでの夏まつりの実施方法が2校区間では異なっており、限られた時間、敷地の中で①舞台演目②バザーの分担など、様々な調整が必要でした。初めての試みで、実際にやってみないとわからないこともたくさんありましたが、当日は心配していた雨もやみ、今までになく大勢の方で賑わい、夏まつりは大盛況の中、無事終了しました。



新たな試みの成功で、両校区の間に団結力・結束力が生まれたように感じます。

新たな試みの成功で、両校区の間に団結力・結束力が生まれたように感じます。



「ともに生きよう」を合言葉に

柏原校区自治協議会の構成団体の一つである人権尊重推進協議会は、発足から十年たち「一人ひとりが大切にされるまちづくり」をテーマに、様々な啓発活動を行ってきました。

3月に東日本大震災が起こり、人権の観点からもこの災害に向き合おうと、7月23日に「ともに生きよう」と題した特別企画を開催しました。今回の企画は「心に傷を負った人との共生」をテーマにしています。人尊協が今後とも取り組んでいきたいテーマの一つです。被災地に赴いて支援活動に当たった3人の方を招き、被災地報告とともに、会場の皆様を交えたパネルディスカッションを行いました。報告者は、災害ボランティアのベテランである柏原校区在住の森田浩章さん、福島原発からの避難者へ傾聴ボランティアを行った木村玉祚さん、臨床心理士として子どもの心のケアに当たった馬男木陽子さんの各氏。3人の方々の報告を聞き、その中から

「心の傷を負った人々と同じ社会の中で生きる」事を考えました。愛する人との死別は、誰にとっても身近な問題です。「グリーフ（悲嘆）ケア」という言葉も最近では一般的になってきました。参加者からは、「それぞれの異なる視座からの意見を聞くことで、自らの考えも深まった」という声が聞かれました。

今回の震災は、近隣の人との関わりに思いを巡らす契機にもなりました。地域の間関係と言えど厄介で窮屈な印象を持つ人もいますが、尊重と共感に基づいた、柔らかな、これからの「地縁」づくりを模索していきたいと思えます。



今年度も福岡市住民自治フォーラムを開催します！！



昨年のフォーラムの様子

福岡市の自治のあるべき姿などについて、コミュニティや市民の皆さんとともに考える「住民自治フォーラム」を開催します。

日 時：平成23年11月28日（月）13時から（開場は12時30分から）

場 所：ももちパレス（早良区百道2丁目3-15）

内 容：感謝状贈呈、基調講演、パネルディスカッション

定 員：800名（入場無料、事前申込不要）

主 催：福岡市

共 催：福岡市自治協議会等7区会長会

お問い合わせ：市民局コミュニティ推進課

TEL 733-5161 FAX 733-5595

お問い合わせ・地域の情報
などはこちらまで



- 東区役所地域支援課 TEL 645-1041 FAX 645-1042
- 博多区役所地域支援課 TEL 419-1048 FAX 452-6735
- 中央区役所地域振興・支援課 TEL 718-1062 FAX 714-2141
- 南区役所地域支援課 TEL 559-5072 FAX 568-3824
- 城南区役所地域支援課 TEL 833-4061 FAX 822-2142
- 早良区役所地域支援課 TEL 833-4416 FAX 851-2680
- 西区役所地域支援課 TEL 895-7036 FAX 882-2137

博多区板付北校区

板付北校区自治協議会

松川 宏 会長

(博多区自治協議会長連絡協議会会計)



- ①当校区は、昭和49年4月に、板付、宮竹、那珂校区から分離独立しました。福岡空港の南西側に位置し、我が国最古の米作り集落跡とされる板付遺跡(国指定史跡)を有し、板付・板付南団地といった大規模住宅団地があります。11の自治会・町内会があり、世帯数約3,300世帯、人口約7,500人の校区です。
- ②当協議会では、校区の財産といえる板付遺跡を大切にしたいということから、板付北公民館とも連携しながら、遺跡に因んだ事業に力を入れています。ほんげんぎょう(どんと焼き)、もぐら打ち、ほたる飛翔プロジェクト、赤米栽培、盆踊り大会、遺跡で遊ぼう昔遊びなどです。また、文化祭をはじめ、歩こう会による月2回のウォーキングを柱にした健康づくり、板付校区との共働による諸岡川清掃などの環境美化、青パトによる防犯パトロールや自主防災訓練など防犯・防災活動にも取り組んでいます。
- ③当校区でも高齢化率は高く、高齢者の単身世帯も増加の状況にあります。今後はこうした一人暮らしの方々の見守りとそのネットワークを構築したり、また昨年からはじめた板付遺跡クリーンアップ・マナーアップ作戦(清掃活動)も継続していきたいと考えています。「明るく住みよいまちづくり」のため、自治協議会で話し合いをしながら、自分達でできることにチャレンジしていきたいと思っています。

城南区七隈校区

七隈校区自治協議会

艶島 厚 会長

(城南区自治協議会連絡会議会計監事)



- ①我が校区には、南に油山、中央に七隈川が流れ、福岡市でも有数の緑豊かな西南杜の湖畔公園があり、福岡大学を中心に、南北に城南学園通り、東西に福大通り、さらに地下鉄七隈線の三つの駅を持つ、自然環境に恵まれた町に約6,200世帯(高齢者構成比21%)が住んでいます。
- ②自治協議会では、「明るい、安心・安全な七隈」をスローガンに掲げ、高齢者を対象にした「ふれあいサロン、ふれあいネットワーク、敬老祝賀会」、子どもを対象にした「登下校時の見守り、デイキャンプ、餅つき大会、夏祭りイベント(サマータイム)」、すべての住民を対象にした「運動会、どんと焼き、防災訓練」等を中心に地域の交流・活性化を図っています。
- ③今後、ますます高齢化が進むことが予想されることから、地域として、高齢者に対し共助・互助について、何をどれだけできるのか、また、町内会・自治会の未加入者にどのようにすれば加入してもらえるのかを当面の課題として取り組んでいきたいと思っています。

早良区賀茂校区

賀茂校区自治協議会

大塚 恵三 会長

(早良区地区自治組織連絡協議会幹事)



- ①校区の中心を金屑川が南北に流れ、昔は田園風景が広がっていましたが、最近では地下鉄七隈線、外環状道路、都市高速5号線の開通等でマンション等が増加、新興住宅地へと変わりつつあります。人口9,936人、所帯数4,523世帯、高齢化率19.1%と都市化と高齢化が進んでいます。
- ②校区では「安全で住み良い街づくり」をモットーに、自治協議会の中に「なまずの会」を結成し、現在約150名の会員が登録されています。「なまずの会」の活動は、登下校時のこどもたちの見守りや、青色パトロールカーによる安全パトロール、更には町内毎の夜間パトロールも実施しており、こどもの交通事故「0件」と活動の成果をあげております。また、この活動を校区全体で取り組むことで、住民の安全安心への意識が高まったことも活動の成果と考えております。
- ③平成7年度に校区の自治防災組織を立ち上げましたが、現在はほとんど機能していない状況です。東日本大震災を踏まえ、賀茂校区防災組織を再構築し、災害に対する校区住民の不安感を取り除くことを目指し取り組んでいきたいと思っています。

西区石丸校区

石丸校区自治協議会

森友 康弘 会長

(西区自治協議会会長会事務局長)



- ①校区のほぼ中央に名柄川、西側に十郎川と二つの河川が流れ、この地を育んできました。昭和50年頃から住宅中心の土地利用が図られ、今では人口が11,701人、世帯数4,716戸を擁するまでになりました。都市高速1号線と5号線及び西九州道への接点など交通の重要拠点の役目を果たす土地柄でもあります。また、外環状道路の全通と共に交通や買い物など、生活利便性の良さが一段と向上しました。
- ②当自治協議会は8つの単位自治会の他に、地域で活動を行う18団体で構成、平成17年4月に自治連合会を再編発足しました。各団体がそれぞれの立場で活動を実施するなか、地域での安全・安心を合い言葉に、通学路での見守りや青パトによる巡回指導、また、高齢者や子どものためのボランティア活動など住民による地域活動が盛んに行われていることも特徴です。夏祭り・敬老会・体育祭も大勢の参加者で大変な盛り上がり様です。
- ③西部市場移転後の跡地を「ビオトープ公園」に、また、災害時の避難場所としても活用できるよう、市と協議を重ねています。要望が叶えばこの公園をまちづくりの拠点施設として位置づけたいと考えています。広く区民が利用できる「憩いの場」となることを目指し、今後とも市当局への働きかけを続けていきたいと思っています。